入試年度	2027 年度	入試時期	Ⅰ期入学試験	実施日	2026 年 9 月 25 日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 英語教育学研究領域
入試方式	一般・外国人留学生		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

Ⅰ．論述問題

【出題の意図】

２題のうち１題を選んで、論述することを求める。いずれの設問においても、英語教育・第二言語習得に関する主要な概念や理論についての基礎的な理解に加え、関連する研究知見を踏まえて論理的に整理・説明する力を評価する。また、既存の理論や研究成果を単に説明するだけでなく、それらをもとに具体的な研究方法や教育実践を構想し、その妥当性を説明する力をみることを意図している。

【解答例（採点時の観点）】

（１） 第二言語学習におけるモチベーションとエンゲージメントの共通点と相違点を、主要な理論や研究知見を踏まえて論じなさい。さらに、両者の関係を明らかにするために、どのような研究を行うことができるか提案しなさい。

・モチベーションとエンゲージメントについて、関連する主要な理論や研究を踏まえながら、両者の概念的な共通点と相違点を適切に整理しているか。
・モチベーションとエンゲージメントの関係について、両者の相互的・動的な関係を、理論的根拠や研究知見に基づいて論じているか。
・両者の関係を検証する研究方法について、研究対象、測定方法、研究デザイン、分析方法等を具体的に提案しているか。

（２） 近年、英語学習者および英語教師のウェルビーイングへの関心が高まっている。ウェルビーイングの概念を定義したうえで、その形成や変化に影響を及ぼす要因を、主要な理論的枠組みに基づいて論じなさい。さらに、ウェルビーイングを促進するための具体的な教育実践や支援方法を提案し、その効果の検証方法を説明しなさい。

・ウェルビーイングを単なる一時的な幸福感やストレスの欠如ではなく、身体的・心理的・社会的側面を含む多面的な概念として適切に定義しているか。
・ウェルビーイングの形成や変化に関わる要因について、個人内要因だけでなく、対人関係、教育・職場環境、制度的・組織的条件等を含めて、多層的かつ理論的に論じているか。
・ウェルビーイングを促進するための教育実践や支援方法を具体的に提案するとともに、その効果を検証するための研究方法を適切に説明しているか。

Ⅱ．用語解説

【出題の意図】

４題のうち２題を選んで、解説することを求める。英語教育・第二言語習得に関する主要な概念や理論について、その基本的な意味や背景を正確に理解しているかを評価する。単なる用語の定義にとどまらず、必要に応じて具体例や関連概念との違いを示しながら、適切に解説することができるかどうかを評価する。

【解答例（採点時の観点）】

（1） フォーカス・オン・フォーム（Focus on Form）

・Focus on Form を、意味中心のコミュニケーション活動を基本としつつ、必要に応じて学習者の注意を言語形式に向ける指導上の考え方として、適切に説明しているか。
・Focus on Form、Focus on Meaning、Focus on Forms の違いを理解し，具体的な実践例と関連づけて説明しているか。

（2） 学習スタイル（Learning Styles）

・学習スタイルを、学習者が情報を受容したり、処理したりする際の習慣的な傾向として説明し、視覚型・聴覚型等の代表的な分類について基本的な理解を示しているか。
・なぜ、学習スタイルについて留意する必要があるのかを、スタイル・マッチングやスタイル・ストレッチングなどの考え方にも触れながら説明しているか。
・学習者を特定のスタイルに固定的に分類することの問題点や、学習スタイルと教授法を一致させれば必ず学習効果が高まるとは限らないことなど、研究上・教育実践上の留意点を理解しているか。

（3） 自己調整学習（Self-Regulated Learning）

・自己調整学習を、学習者が自ら目標を設定し、学習過程をモニタリングし、結果を振り返って次の学習に生かすといった循環的な過程として適切に説明しているか。
・メタ認知、動機づけ、自己効力感など、自己調整学習を構成する主要な要素を理解し、代表的な理論的枠組みと関連づけて説明しているか。

（4） 訂正フィードバック（Corrective Feedback）

・訂正フィードバックを、学習者の言語使用に含まれる誤りに対して、その誤りや適切な形式に注意を向けさせるために与えられる方略として、適切に説明しているか。
・リキャスト、明示的訂正、明確化要求など、主要な訂正フィードバックの種類や、明示性・暗示性等の違いを理解しているか。
・訂正フィードバックの効果が、フィードバックの種類、学習者の習熟度、対象とする言語項目等によって異なり得ることを踏まえ、教育実践上の意義や留意点を説明しているか。

合否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。
合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。